

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和2年度病害虫発生予報第9号 (12月)

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-62-0085
内 線 471
ファックス 0561-63-7820

令和2年度病害虫発生予報第9号 (12月)

令和2年12月1日
愛 知 県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ハクサイ	コナガ	やや多い	県全域	11月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップによる誘殺 数はやや多い	± +
キャベツ	コナガ	やや多い	県全域	11月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップによる誘殺 数はやや多い	± +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
トマト (施設)	葉かび病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は多い	± -
	黄化葉巻病	やや多い	県全域	11月下旬の発生量は平年並 11月下旬のコナジラミ類の発生量はやや多い	± +
	コナジラミ類	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い 12月の気温はほぼ平年並	+ ±
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い	+
	ミナミキイロ アザミウマ	少ない	県全域	11月下旬の発生量は少ない 12月の気温はほぼ平年並	- ±
キュウリ (施設)	べと病	少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない 12月の日照時間は多い	- -
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の気温はほぼ平年並	± ±
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は多い	± -
	うどんこ病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	少ない	県全域	11月下旬の発生量は少ない	-

・防除対策

[ハクサイ、キャベツ・コナガ]

収穫前日数に注意し、ディアナSCやフローバックDFなどで防除しましょう。春先気温が高くなると本種の成育が早くなり、発生が増加するため、今のうちに防除しましょう。発生しているほ場では、収穫後は残さを速やかにすき込み、発生源を除去しましょう。

[トマト・黄化葉巻病、コナジラミ類]

11月2日発表の「コナジラミ類情報第1号」を参照してください。

〔ナス・うどんこ病〕

ピカットフロアブルやパンチョTF顆粒水和剤などで防除しましょう。

・留意事項

ハクサイベと病の発生が多いほ場があります。病斑上にできる分生胞子によって伝染するので、発病葉などはほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。

キャベツ菌核病の発病株は伝染源となるので、菌核を形成しないうちに抜き取り、ほ場外に深く埋めるなど適切に処分しましょう。

施設野菜では、この時期、保温のため施設を閉め切ると湿度が高くなり、灰色かび病が発生しやすい条件となります。初発を確認したら速やかに防除しましょう。特に、暖房機の設定温度を低くしている場合は、暖房機の稼働時間が短くなり、施設内が多湿になりやすいので注意しましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて施設外に出し、適切に処分しましょう。

トマトでは、すすかび病の発生が多いほ場があります。湿度管理を適切に行うとともに、発生しているほ場では防除を徹底しましょう。

ナスでは、すすかび病やすす斑病の発生が多いほ場があります。湿度管理を適切に行うとともに、発生しているほ場では防除を徹底しましょう。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

イチゴでは、ハダニ類の発生が多いほ場があります。多発すると防除が難しくなるので、ハダニ類を見つけた場合は速やかに系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。訪花昆虫や天敵を導入している、あるいは今後導入を予定しているほ場では、それらへの影響も考えて農薬を選定しましょう。

作物

・留意事項

トビイロウンカについて、本年被害が県内各地で多発したことに伴い、次年度以降へ向けた対策をまとめました。11月27日発表の「トビイロウンカの次年度以降の対策について」を参照してください。

本年被害が多かったイネ白葉枯病、スクミリンゴガイ等について、秋冬期の耕うんなどの対策を行う時期です。詳しくは11月17日発表の「水稻の秋冬期管理情報第1号（イネ白葉枯病、イネ縞葉枯病、スクミリンゴガイ）」を参照してください。

果樹

・留意事項

10月下旬の巡回調査において、カキの角斑落葉病の発病葉率が過去10年間と比較して最も高くなりました。本病の越冬伝染源を減らすために、落葉をほ場外に持ち出したり、土壌中にすきこむなど適切に処分を実施しましょう。詳細は本日発表の「カキ落葉病情報第1号」を参照してください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1 か月予報（名古屋地方気象台11月26日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：30% 平年並：40% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。